

平成28年度 防衛大学校卒業式  
防衛大臣訓示（聞取りのまま）

本日ここに安倍内閣総理大臣ご臨席のもと防衛大学校の卒業式が挙行されるにあたり防衛大臣として一言申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日の皆さんの凛とした姿を見ると昨年11月に行われた開校記念祭に訪れた時のことを思い出します。

校内を歩き各国留学生の皆さんと触れ合い国際化されている防衛大学校の素晴らしさを実感しました。また最後の棒倒しでは皆さんの熱く、力強く、気迫あふれる姿を目の当たりにして胸が熱くなったことを覚えています。そして今、皆さん一人一人の顔を見渡すとき私に向けられている皆さんの眼差しが更にたくましく気迫溢れるものであることに喜びとともに頼もしさを感じています。

「涙とともにパンを食べた者でなければ人生の本当の味は分からない」これはドイツの詩人ゲーテの言葉だとされています。この言葉は深く、いくつかの解釈があるようですが日々何事もなく安穏と生きているだけでは人生の味は分からない。涙するほど苦勞しなければ本当の味は分からないということではないでしょうか。

皆さんがこの小原台で過ごした年月は嬉しいこと楽しいことばかりではなかったと思います。時には辛く涙するほど苦しいことを乗り越えて今日この卒業式に臨んでいることと思います。その意味で皆さんが防衛大学校で過ごす中でゲーテの言葉にある人生の本当の味を味わう資格を得たのではないのでしょうか。皆さんがこの防衛大学校の正門を初めてくぐった、その時と比べ肉体だけでなく、その精神は一回りも二回りも大きくなったことでしょう。そして伝統ある防衛大学校での教育を修め卒業した皆さんは自衛隊における人生の本当の味をかみしめるべく、これから様々なことを想像し更にたくましく成長されると確信しています。

皆さんは先ほど学校長から卒業証書を受け取りました。この後、宣誓

式に臨むこととなります。そこでは「事に臨んでは危険を顧みず身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえること」と宣誓し晴れて自衛官としての道を歩むこととなります。

防衛省・自衛隊の主たる任務は我が国の平和と独立を守り国の安全を保つため我が国を防衛することです。

その我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増しております。

北朝鮮は昨年9月に5回目の核実験を強行しました。また先日も弾道ミサイルを4発発射するなど国際社会に対する挑戦と思われる行動を繰り返しています。

これら一連の動向は北朝鮮の核兵器開発をより一層進展させるとともに、その運搬手段となりうる弾道ミサイル能力の増強につながるものであり我が国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威として極めて強く懸念すべきものであります。

こうした北朝鮮の行動から昨年来、新たな段階の脅威に入っていると考えています。また中国は東シナ海において公船による我が国尖閣諸島周辺の領海侵入を繰り返している。

南シナ海においては急速かつ大規模な埋め立てや港湾・滑走路などの施設の建設を強行し一方的な現状変更及びその既成事実化をより一層進展させており今後の方向性について強い懸念を抱かせる念があります。

こうした中、我が国の防衛を担う自衛隊に求められる役割や期待は一層大きくなっています。

皆さんはこうした現実を直視し自衛隊への期待を受け止め将来幹部自衛官となる者としての自覚を持ち緊張感を持って任務にまい進してほしいと思います。また災害派遣要請は地震、風水害、火山噴火、大雪害等、多岐にわたり要請されます。

近年では高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い国内の各所で要請を受け皆さんの先輩が活動しています。

こうした活動は必ずしも華々しいものではないかもしれませんが。

しかし、その活動の一つ一つが国民の安全な生活な生活に繋がっていることは疑いようがありません。そうした活動により先輩たちが築き上げた自衛隊に対する国民の信頼とそれに伴う伝統という財産を余すことなく受け継ぎ創造の精神を持ってより一層発展させてくれることと期待をしています。

このように自衛隊が様々な場面で活躍していく中、女性自衛官においても活躍の場が広がってきています。

平成4年に防衛大学校に女子が初めて入校しましたが、その第1期生の中から一昨年には1佐が誕生しました。

このように皆さんの先輩である女性自衛官が部隊長として、あるいは護衛艦艦長として各地の部隊等において責任ある立場に就き部下を率いて職務に邁進し大いに活躍しています。今後も女性自衛官の活躍の場は広がっていくことでしょう。

各国からの留学生の皆さん。ここ小原台で過ごした生活は母国の生活とは違い慣れないことや戸惑うことが多かったと思います。その間、様々な困難を乗り越え無事に卒業式を迎えた皆さんに敬意を表するとともに心から誇りに思います。

本校で得た知識や経験が母国において存分に生かされることを願うとともに、ここで育んだ友情は真の友情であることを明記し今後も母国と我が国との友好親善関係をより一層深化させるための懸け橋となってくれるよう心から切望いたします。

最後になりましたが、これまで卒業生を育て温かく見守ってくださったご家族の皆様、学生に対し多大なる情熱と愛情を持って教育に取り組んでこられた國分学校長をはじめとする防衛大学校の教職員そして本日、来賓としてお越しいただいている日頃から防衛省・自衛隊に多大なるご理解・ご協力を賜っております国会議員の先生方、協力団体や神奈川県横須賀市をはじめとする地元自治体の皆様、優秀な若者の留学生にご尽力いただいた各国防衛関係の皆様、更には我が国の防衛にとって大事な役割を果たしておられる各国の代表者の皆様に深く感謝

とお礼を申し上げ私の訓示といたします。

平成 2 9 年 3 月 1 9 日  
防衛大臣 稲田 朋美